

〔第128回銀行業務検定試験〕

「財務3級」団体優秀賞受賞

株式会社 オービック

～新たな企業利益の創造から内部統制強化に向けての支援～

今回は、去る平成26年6月1日(日)に実施された第128回銀行業務検定試験「財務3級」において団体優秀賞を受賞されました、株式会社オービックへ伺いました。

オービックは、昭和43年に設立され、企業の情報システム構築から稼働後の運用サポートまでを自社一貫体制で展開しているシステムインテグレータです。会計を中心に販売情報や生産情報などを管理する統合業務ソフトウェア「OBIC7シリーズ」や、金融機関向けの「総合融資支援ソリューション」などを柱に、数多くの企業の情報システムを構築し、サポートされています。今回、快く取材に応じてくださいましたのは、経営企画室次長の松下祐二さん、人事部課長代理の竹内正司さん、マーケティング推進統括部課長代理の三由(みよし)光さんです。

●オービックに求められる役割

はじめに、オービックに求められる役割について伺いました。「私どもは、45年以上にわたり情報システムを通して、顧客の経営のお役に立てる仕組みの提案・構築をしてきました。過去は主に業務の省力化・効率化等について求められてきましたが、近年は、その内容に変化が生じています。つまり、システムから得られる情報をもとに、いかに経営効果を上げ、企業の成長を実現していくかが求められています」(竹内さん)

金融機関向けビジネスに携わっている三由さんは、「私どもは、『顧客』を起点とした融資関連の業務全般のソリューションをそろえています。我々社員自身が、融資申込前の案件管理から実行後のモニタリング、回収管理に至るまでの融資業務全般の幅広い業務知識、そして会計知識をもって、BPR(ビジネスプロセス・リエンジニアリング)につながるご提案をしていきたいと考えています」とお話しされました。



▲オービック 本社

●団体優秀賞受賞について

第128回銀行業務検定試験「財務3級」におきまして、合格者数290名(全国1位)等の成績で団体優秀賞を受賞されました。まず、受賞の感想を伺ったところ、「もともと金融機関向けのビジネスを展開しているメンバーの知識の整理・体系化を目的に受験を企画しましたが、一般産業向けのビジネスを展開しているメンバーからも、これは自分たちにもスキルアップにつながると提案がありました。このような状況において、私どもはもともと『会計のオービック』として認知されていると考えていましたので、その確認のような位置づけで受験をさせていただきました。結果として、団体優秀賞を受賞できて光栄であると同時にホッとしています」(竹内さん)とお答えいただきました。

松下さんは、「団体優秀賞受賞もありがたいことですが、受験に向けた勉強を通じて得た知識がビジネスの実務にも役立っているという声を営業やSE から多く聞いています。実際に効果がでていようで、その意味でも大変ありがたいことだと感じています。システム面のみならず、業務面の理解も深めることで、提案活動を通じお客様へ還元していければと思っています」とお話しされました。

●銀行業務検定試験の活用

銀行業務検定試験について、今後どのように活用いただけるか三由さんに伺ったところ、「私どもの仕事は、融資関連の業務全般のソリューションに関する製品があるというだけで、金融機関のお客様にご提案できるわけではありません。提案には関連する幅広い業務を理解する必要があります。そのため、信用格付・財務分析等に関連するものとして、3月試験では融資管理3級、6月試験では財務3級にチャレンジしました。次回以降も関連性の高い試験を中心に引き続きチャレンジしていこうかと考えています」とのことでした。



▲経営企画室 松下祐二さん

●学習方法

銀行業務検定試験の学習方法について竹内さんに伺いましたが、「どのようなスタイルがベターなのか、実際に受験するメンバーと会話して、『受験対策シリーズ』『問題解説集』を準備し、各自が自習することにしました。しかし、受験者が多数いたこともあり、必然的にお互いに教えあう動きがみられ、最終的には、相互学習になっていました。また、私どもは、入社前の内定段階から全社員に対し簿記2級の取得を促していますので、その効果もあったことと思います」とお話しされました。



▲マーケティング推進統括部 三由光さん(左)人事部 竹内正司さん(右)

●オービックの人材育成

「人の成長が会社の成長」との考えのもと、時代により求められる役割が変わってきていることを認識し、顧客の役に立つ仕組みは何かを考え、提案・実現し、結果として企業の成長を導くことができる人材を育てたいと考えているとのこと。しかし、それには、顧客のビジネスを理解する力、IT 技術力、また前提としてコミュニケーション力・人間力等、さまざまな能力が必要であり、これらをバランスよく育てていけるカリキュラムを企画・実施しているとのことでした。

最後に竹内さんから、「企業活動は、最終的には会計に集約されるためこれを正確に読み取り、顧客の業務を理解し、課題の発見に注力することが重要と考えます。引き続き、社員の会計力強化に注力し、その過程で財務3級級を利用させていただきたいと考えます」とお話しいただきました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応いただきました松下さん、竹内さん、三由さんには、心から感謝申し上げます)